

仮想サーバ (4)

前回説明したのがクライアント用の仮想PCのソフトの説明でしたが、今回は今回の連載の中心である仮想サーバアプリケーションについてです。主なものとしては、Virtual Server 2005 R2、VMware ESX Server、Xen3.0、Virtuozzoの4つです。これらはx86サーバ一で稼働し、Linux、Windowsが稼働するものです。ここで確認となりますが、仮想サーバを利用するポイントとしては、①サーバの統合、②古いOSの延命、③穂スティングの効率化となります。このうちサーバ統合というのは、仮想PCのところで絵図したように仮想マシンモニタの上で複数のゲストOSを動かすことができますが、仮想サーバも同様に複数のサーバOSをゲストOSとして動作させることができます。このことから複数のサーバで動作していたものを1台のサーバ上に移行することによってサーバ機の数減らして運用コストの削減を図ることができます。古いOSの延命がこれまでの中心（正直私の中だけでしょうが）ですが、現在のハードウェアでは動作が想定されていない古いOSであるWindows NT4.0やNetWare、RedHat Linuxなどを動作させることができます。4つの中からの選択ポイントは大きく「基本事項」と「考慮点」の2つです。基本事項には、製品のアーキテクチャによる特性や利用できるゲストOSの種類、コストなどが含まれます。考慮点には仮想サーバの運用を支援する機能やツールの有無で、既存サーバから仮想サーバへの移行支援ツールやGUI運用管理ツールなどが含まれます。

Virtual Server 2005 R2はマイクロソフトの製品でサイトから無償で入手することができます。ホストOSはWindows Server 2003で、ゲストOSとして使用できるのはWindowsのNT4.0、2000 Server、Server 2003とXP Proの4つです。ゲストOSとして利用できるWindows server R2 Enterprise Editionには4つのゲストOSのライセンスが付属しています。移行ツールとしてはVirtual Server以降ツールキットが無償提供され、GUI運用管理ツールとしては基本的な管理機能が標準装備されているほか、Microsoft Operations Manager 2005が別売りとして提供されています。

VMware ESX Server 3はVMware社の製品で、ホストOSを必要としません（ホストOSが必要なVMware GSX Serverもあります）。そのため処理のオーバーヘッドが少ないという特長があります。ゲストOSとしてはWindows NT4.0 Serverの他、RedHatなどのLinuxやNetware、Solarisなどが利用できます。価格は2CPUライセンス+マルチベンダ保守セットで741,300です。移行ツールとしてはVMware Converter Starterが無償提供され、GUI運用管理ツールとしてはWeb AccesssとVietual Infrastructure Clientが標準装備されています。

Xen3.0はXenSource社が開発したもので、オープンソースとして提供されています。このソフトもホストOSが無く、処理のオーバーヘッドが少ないですが、移行支援ツールやGUI運用管理ツールが無く、利用できるゲストOSとしてはWindowsとしてServer 2003とXP Pro、LinuxとしてはRedHatとSuseに限られています。（次回に続く）

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 6月4日号

特集 沈みゆく国内ケータイ 年間販売が最悪2/3に

→加入者数9500万人の市場に端末メーカ10社がひしめき合う日本の携帯電話市場。この「世界の孤島」とも揶揄される日本の携帯電話市場に大きな環境変化がおきている。10社合計の世界シェアが10%に満たず、販売奨励金が見直され、平均買い替えサイクルが3年になった場合販売が2/3になることも予想される。

特集 WWWとデスクトップ「統一時代」が始まる

→これまでアプリケーションはパソコンにインストールしてということであったが、WWWを通じて提供するという形態が一般的になることにより開発技術が共通化しようとしている。。

○日経パソコン 5月28日号

特集 メールの作法2007

→メールの送り方に作法はないのか。手紙と同じような導入部は必要かなど、これまで何気なく送っていたものが受け取り側から見ると無礼になるものは無いのか。調査して初めてわかったその作法。

○NETWORK WORLD 7月号

特集 フリーソフト&サービス大集合

→フリーソフトにもいろいろある。管理者側に立って、運用管理、コミュニケーション(スケジュール管理など)、セキュリティ、その他に分けて紹介。